

自ら学ぶ子の育成 ～かかわり合い ひびき合う授業をめざして～

内灘町立大根布小学校

1 事例の概要

(1) 主題について

本校では、めざす学力を、知識理解や技能・表現力などの「見える学力」だけでなく、学びたいという気持ちをもち続けて学ぼうとする『学ぶ意欲』、よりよい解決の仕方となる『思考力』と『学び方』、自らを見つめ高まろうとする『自己評価力』、学習集団の中で密に関わり、高まり合おうとするための『コミュニケーション力』(かかわる力、表出する力、受容する力)などの「見えにくい学力」がこれからの社会を生きていく子どもたちにとって大切であると考え、子ども達が自ら学ぼうとする姿を通して、これらの確かな学力を育みたいと考えた。そこで、自ら学ぶ子の育成を主題に掲げ、確かな学力向上をめざし実践を行ってきた。

(2) 副題について

確かな学力向上のためには、学び合う場の一層の充実を図ることが必要である。そこで、「かかわり合いひびき合う授業をめざして」と副題をかかげ有効なかかわり合いを通して、学び合う楽しさを味わい、自己の高まりを実感し、学んだという成就感を持つことのできる授業をめざすことが確かな学力を育むことと捉えた。「かかわり合い」とは、学び合いの楽しさを味わうことである。教師と子どもが、あるいは子ども同士が、価値のある教材とかかわり、ねらいにせまる課題に触れ、かかわりをもった時、授業を楽しいと感じ、よりよい学びを見つけ始める。「ひびき合い」とは、いくつものかかわり合いの中で、「なるほど・やってみよう」などと学んだ喜びを実感し、よりよい学びを求め意欲的になることと捉えた。かかわり合い、ひびき合う授業を実践する中で子ども達は自ら学ぶ力を見い出すであろう。また、担任と子ども達がめざす授業像を話し合い、学級の実態に応じた授業像を掲げ、自ら学ぶ意欲を喚起することとした。

(3) 研究のねらい

- ① 児童の実態を把握し、授業改善の方向性を明確にする。
- ② 学んだ喜びを実感し、学ぶ意欲が湧く授業実践に取り組む。
- ③ 学力調査、意識調査から研究の有効性を検証する。

A—1 研究構想図

2 実践内容

(1) 学びのスタイルの構築と学んだ喜びを実感できる評価

① 学びのスタイルの構築

ア 課題解決型学習の実践

自力解決	課題設定の工夫 ・必要感のある ・個々が選択できる ・魅力のある ・本質に迫る(教材・題材) 自力解決の手だて ・時間の保障 ・既習の掲示 ・ノート指導 ・ワークシート ・ヒントカード
学び合い	効果的な学び合いを設定 ・ペア、3人、グループ、学級で ・深める発問の工夫(思考を焦点化する発問)
ふり返り	自己を見つめることの習慣化 ・1時間の学習の伸びを実感できる手立て(評価カード・ふり返り文・発言)

イ 有効なかかわりの工夫

ウ めざす子どもの姿とつけたい力の明確化

エ 思考力をつける授業の工夫

オ 少人数授業の実践(算数科)

② 学んだ喜びを実感できる評価

ア 学ぶことの価値を味わう自己評価・相互評価(児童)

イ 授業に生きる評価(教師)

(2) 家庭との連携

① 学校保健委員会での取り組み(H18.19年度)

Let's improve our healthy life style!! Part 2(健康的な生活習慣を向上させよう)
家庭での生活を家族との協力のもとで改善しようと子どもたちが取り組み、実践を発表した。

② 親から子へのメッセージ

授業参観の感想を子へのメッセージ形式にして書いてもらい、児童の意欲につなげた。

③ 心すくすくノート

石川県教育委員会生涯学習課の「心すくすくノート」を夏休み中に全校で取り組み、基本的な生活習慣や家族でふれあう時間の確保につなげた。

④ 親子の手紙

石川県教育委員会生涯学習課の親子の手紙に全校で取り組み、親子のふれあいにつなげた。

B-1 学びのスタイルの構築

B-2 めざす子どもの姿とつけたい力

B-3 評価の工夫

B-4 3年指導案

B-5 5年指導案(少人数)

B-6 保健便り

B-7 家庭との連携

3 成果と課題

(1) 成果

- ・学校が楽しいというアンケート結果にみられるように、授業に意欲的に取り組む姿がみられるようになった。
- ・課題設定の工夫やかかわり合う場の工夫により、課題解決型の授業スタイルが定着し、自ら学ぶ姿勢がみられるようになってきた。
- ・授業をふり返るという活動が定着し、自己の伸びを自覚し、友達のよさを意識する自己評価や相互評価の力がつき、それが次の学びへとつながるようになってきた。
- ・少人数授業での発表しやすい授業形態やきめ細かな指導による自信が、他の教科にも波及しよりよい効果をみることができた。
- ・学習規律、読書指導、朝自習の取り組みなどで集中して学ぶ姿勢が育った。
- ・家庭の協力により、基本的な生活習慣を改善しようとする傾向がみられるようになり、家庭学習も定着してきた。

(2) 課題

- ・授業を通して思考力を育てることを意識するようになってきたが、さらに、確かな学力を育む取り組みを実践していく。
- ・自己評価力や相互評価力は育ってきたので、それを学習内容の把握のための評価に結びつける手立てを工夫していく。
- ・考えを伝えるための言葉の力の不足が感じられるので、全教育活動の中で意識して指導していく。
- ・学力調査の結果を真摯に受けとめ、改善策を立て継続的に学年に応じた指導を実践していく。

C-1 意識調査